

商品の購入やサービスを受けたときの支払いとして、最近、キャッシュレス決済を利用する機会が増えています。現金払いだとお金を使ったという感覚は生じますが、スマホ決済やクレジットカード決済で支払いを済ませると、お金を使ったという感覚が薄れ、いつの間にかたくさんものを買ってしまうことがあります。このような金銭感覚のまひを回避する方法として、お金の出入りをチェックする必要があります。つまりお金の出入りの記録をつけることです。皆さんだと小遣い帳やお家では家計簿をつけることで金銭の出入りが明らかになります。この小遣い帳や家計簿は、現金の出入りのみを記録する単式簿記といわれる技法です。

金銭感覚を身につけよう

ところで、一般的に会社などが取引で使うのは、複式簿記という記録方法です。皆さんは、買い物をしたらただ財布の中からお金が無くなったと思うかもしれませんが、実際のところは、お金を使った分、自分自身にとって価値あるものが手元に残っています。例えば、1万円で購入した自転車を買ったとすれば、1万円のお金が無くなったとだけとを感じるかもしれませんが、実際には1万円の価値の自転車という財産(資産)を持つことになるのです。複式簿記は、ただ1万円の支出があったことだけを記録するのではなく、この1万円の支出と、1万円の価値の自転車を財産(資産)として得たという両方の記録をする方法なのです。

この複式簿記というのは、500年以上前から使用されている技法で、イタリアの数学者ルカ・パチョーリが『スُمマ』という本で紹介して世界に広まったものです。驚くべきことは、この500年以上前の複式簿記のルールが現在でもほとんど変わらずに使われていることです。さらに世界中の会社がこの複式簿記のシステムで取引の記録である帳簿をつけており、この帳簿から財務諸表という会社の財産の状態や業績を表した計算書を作成しています。この財務諸表のデータを使って会社の財政状態や業績の良しあしを見分けたりすることに使っています。

皆さんも将来的には就職したり、起業したりすると思います。まず手始めに小遣い帳をつけ金銭の出入りを記録することによって、金銭感覚を身につけ、そしてその後、一般社会で使われている複式簿記を学んでみてはいかがでしょうか。この技術を身につけることで、将来就職するときに会社の業績を知るうえで役立つこともあるかもしれません。